

主な検討事項

本検討会では、動力ボートを活用した救助(以下「ボートレスキュー」)技術について、全国の消防本部から実態調査により抽出した課題を踏まえ、消防機関における動力ボートによる救助技術の高度化を図ることを目的に、操船・救助要領等について検討し、マニュアルを策定する。

ボートレスキューにおける専門的知識及び活動要領についてのマニュアルを作成することで、災害時における安全かつ迅速なボートレスキュー活動の展開を期待するものである。

なお、検討事項については、記載した事項に限定するものではなく、検討会を進めていく中で追加項目があれば検討項目として取り上げていくものとする。

《検討事項》

1 活動目的や活動水域に応じた装備及び活動要領について

安全で迅速なボートレスキューのためには、活動目的や活動水域に応じて装備や活動要領を区分する必要がある。

- 平水(海・河川・湖沼等)
- 急流
- 浅水域
- 狭小水域
- 洪水(急流・静水)

2 迅速な救助体制について

- 積載要領
- 搬送要領
- 進水要領

3 安全運航について

安全運航ルールをとりまとめ徹底させることで安全確実な救助活動を実施する必要がある。

- 任務分担と乗船位置
(操船員、安全監視員、救助員)
- 2艇運用によるバックアップ体制の確保
- ライフジャケットの着用
- ロックプレートの取扱
- 夜間運航

4 救助手法

- 要救助者への接近要領
- 意識有りの要救助者の救助手法
- 意識なしの要救助者の救助手法
- その他

5 各種連携要領

- 先着隊との連携要領
- PWCとの連携要領
- 航空隊との連携要領

6 安全管理要領

- 各種危険要因の把握
(転覆、座礁、隊員及び要救助者への接触)
- 夜間活動時の安全確保方法
- 各種水域の危険要素
- ヒヤリハット事例の紹介

7 危険回避要領

- ボート転覆時の対応
- 隊員のボートからの落水時の対応

8 メンテナンス・トラブル回避要領

- 点検・整備要領
- トラブル対応要領
(プロペラへの巻き付き・吸い込み、エンジントラブル、資機材損傷等)

9 先進的・効果的資機材

- 船外機
- ボート
- PWC

10 効果的な訓練・教育体制

訓練時間や訓練場所が不足している現状を踏まえ、効果的な訓練手法及び指導者育成について検討する必要がある。

- 効果的な訓練手法
- 効果的な指導者育成方策